

122
NEW

デジタル時代の業務の見える化（要件定義）入門

研修概要	・デジタル化にて、人を中心に考えて、これからの業務のやり方の見える化ができるようになる。 ・本質的にやりたいことを整理して、価値を表す要件定義ができるようになる。 ・使う人（顧客）目線で、デザインできるようになる。				
開催予定	2025年	08月20日（水）	～	08月21日（木）	受講料 （税 抜） ¥65, 000 （非会員）¥58, 500 （会員）
日数	2日間	総時間数	12時間	開講時間	9:30 ～ 16:30 / 昼休憩 12:30 ～ 13:30 （60分）
研修会場	福岡市博多区博多駅前2-11-16 第二大西ビル4F 401号室 株式会社福岡ソフトウェアセンター 福岡研修室				
対 象 者	DX推進担当者（自社で内製化・ノーコードのプロジェクトを実施する方など）、DX推進担当の支援者 デジタル推進部門の方/デジタル時代の要件定義をゼロから学びたい方 ※１２０：DX推進のためのビジネスアーキテクト入門を受講済が望ましい				
到達目標	・デジタル化に際し、これからの業務のやり方の見える化ができるようになる。 ・本質的にやりたいことを整理して、価値を表す要件定義ができるようになる。 ・使う人（顧客）目線で、サービスのデザインできるようになる。				
使用教材	特になし				
カリキュラムの詳細					
1日目	0. デジタルの時代とは			・今起こっているゲームチェンジ	
	1. DX時代のビジネス価値（デジタル時代の仕事）			・ビジネスモデルの変化とワークシフト ～ビジネス常識が変わってきた！ ・求められるスピード感	
	2. 業務の見える化ではなく、人間中心に考える要件定義			・ジャーニーで考える ・価値の見える化 ・全体から考える（全体最適） ・ユーザ主体のストーリー（要件）の定義～なぜから考える・習慣化	
	実践ワークショップ：ビジネスモデル（ワークショップ）			ジャーニーマップによる要件定義（仮題）	
2日目	3. 変化に強いモデリング			・複数テーマの分析 （優先度、変更管理） ・ビジネス分析とプロジェクトの関係 ・文書ではなく”データ”から本質的に必要なことを見える化 ～アプリの民主化・データの民主化 ・データは社外からも持ってくる ・テストファーストの考え方 ・機能の要件定義と非機能の要件定義 ～本当に使いやすいか？（使いにくいのは生産性を落とす） ・自分たちでどこまでやるか、外に依頼するか （外部委託のポイント）	
	4. 現場の変革			・作ると使う（開発と運用）はセット ・立ちはだかる壁 ・将来的にビジネス変化とともに必ず変更する ～マニュアルは、最初しか見ない ・他の業務への影響を分析する～後工程はお客様 ・ツールに頼る”落とし穴”～ノーコードはツール	
	5. プロジェクト企画へ			・プロジェクト企画書とは	
	実践ワークショップ：サービスデザイン・ストーリーのレビュー（ワークショップ）			サービス・ブループリントから、ユーザーストーリーへ	
関連講座					

※最低開催人数は4名とさせていただきます。開催可否は、開催日の2週間前までにご連絡させていただきます。

※改善のためカリキュラムは予告なく変更させていただくことがあります。